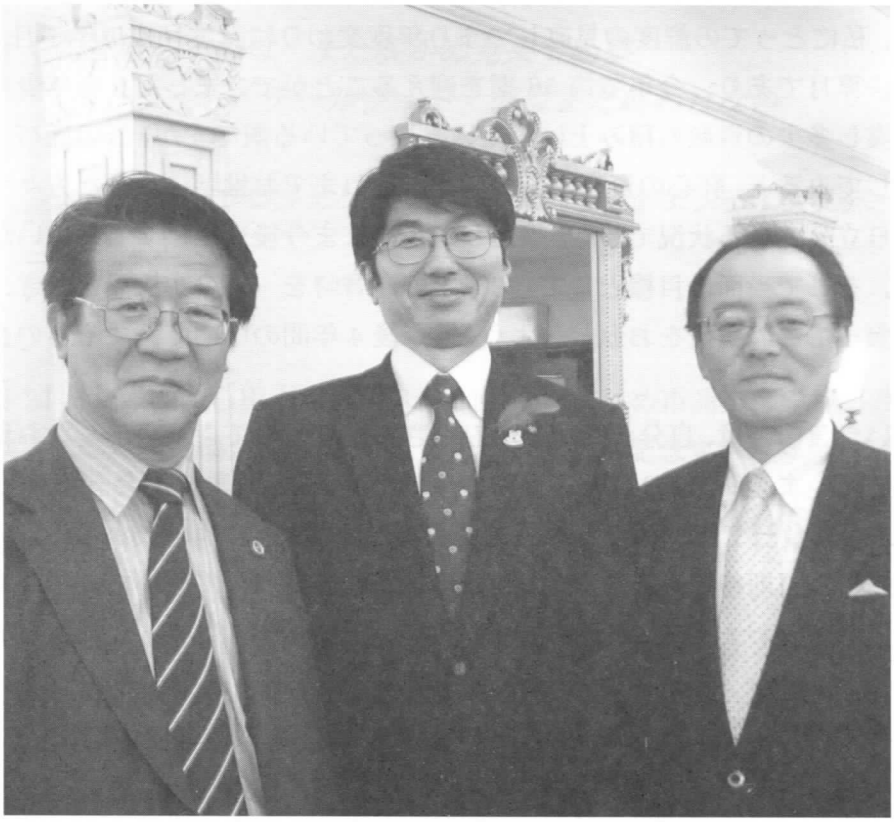
Ishi Datami

いしだたみ



長崎南高ＯＢ（12回生）の田上富久・長崎市長を囲んで

（詳しくは３ページ）

長崎南高関西同窓会　会報

～２００８年　春号～

巻頭メッセージ

この春に思う

長崎南高関西同窓会会長　大石哲史(7回生)

いよいよサクラの季節。世の中は一様に卒業から入学或いは入社のシーンへ。また企業はじめ各種の団体は、年度末を終えいよいよ新年度入りといかにも昨日までのことはすっかり忘れ、全てが新しい舞台に変わるさまは文字通り新鮮。そんな気分を持つのは私だけでしょうか？

一方で、私にとっての鮮度の見直しつまり年度変わりは誕生月の毎年1月。つまり私の人生の決算月であり、今年で第56期を迎えることができました。毎年少しでも自己資本を充実し多少の資産も積み上げしたいと思っている訳ですが、この度バランスシートを棚卸してみると、肝心の資産はその大半がこれまでお世話になった方々からの外部負債で成り立っている状況でした。果たしてこのまま今後も推移するのはいかがなものかと……。そこで当面の目標として、60才の還暦時を一応の本決算とおき、まずはそこまで頑張ってこの負債をお返ししようと、今後4年間の中期計画なるものを立案した次第です。

ここでいう負債とは、自分がこれまでひとさまから受けてきたいろんなお世話であり恩であると思います。つまり自分を育ててくれた両親、これまで出会った恩師・諸先輩・同僚・友人から負ってきた様々な事柄です。また資産とは、他の人からの自分への信用であり信頼であり期待であると思います。自分が社会に対して何ができているのだろうか？負債として受けた恩を少しでもお返しすることが大切なことではないかと思います。

さてその中期計画とやら、まず、ポイントとなる基本方針は次の通り。

『60にして耳順う』(孔子より)

…「40の不惑」「50の知命」もできていないこの身でせめて耳順には達したいものです。

そして、具体的施策は三つ。

① 多くの人と交わる

② よく学びよく遊ぶ

③ とりわけ自然に触れる

①は最も基本。昔より「人は人によりて人となる」と言います。今まで多くの出会いの中で「人によりて」のご指導に感謝していますが、「人となる」には程遠いと痛感。これまでの出会いとこれからのまた新たな出会い、それぞれの出会いを大切に少しでも

「人となる」に近づきたいものです。……まだまだ現役。仕事人間らしく仕事を通して世のため人のために気張っていこう！

②は相変わらず書生っぽい言い種ですが、ややもすると誰しも一方に偏りがちですね。心して程よいバランスを保ちたいものです。……そういえば南高ではかつて「一意学道に専心せよ」とあったなぁ。

③は私の唯一の右脳活性化策です。3年前から取り組んでいるウォーキング。何より手軽さが一番。自然との触れ合いの中、これまで何気なく見てきた事象に鮮美な感動を憶えること度々です。同時に其処に在る歴史・文化も観て歩き左脳の活性化にも引き続き努めていきたいものです。

行く先を照らすのは　まだ咲かぬ見果てぬ夢
……ヘッドライト・テールライト　旅はまだ終わらない

（『プロジェクトX～挑戦者たち～』エンディングテーマより）

～追記～

去る3月21日に長崎から田上市長(南高12回生)をはじめ市商工部の幹部の方達が来阪され光栄にも臨席する機会を得ました。表紙はその折の記念すべき写真(**※注**)です。

さて、冒頭に申したサクラと言えば、かつて東京と長崎を結んでいた寝台特急「さくら」。いわゆるブルートレインがありましたね。2005年に廃止になったのは皆さんもご記憶だと思います。何事も無くなるというのは寂しいもの。その代わりといってはなんですが、いよいよ九州新幹線長崎ルートも着工が見え、これに向けた新たな長崎のまちづくりに田上新市長も腐心しておられるようです。新時代にふさわしいリーダーであり、きっと持ち前の企画力・実践力で新たなコンセプト、新機軸を打ち出してくれることでしょう。

『フレー・フレー田上市長！』

南高OBの一人として強くエールを送ります。

※注）表紙の写真は田上市長（中央）を囲む松本藤一元会長（左）と大石会長＝3月21日、大阪市のＫＫＲ大阪ホテルで撮影

２００８年度　関西同窓会スケジュール！

総会は１１月１５日に大阪で！

長崎南高関西同窓会の今年の総会は、１１月１５日（土）に開催します。会場は大阪城にほど近い、「ＫＫＲホテルオーサカ」（大阪市中央区馬場町２番２４号）の予定です。詳しくは次号でお知らせしますが、みなさん予定を空けてお待ちください。

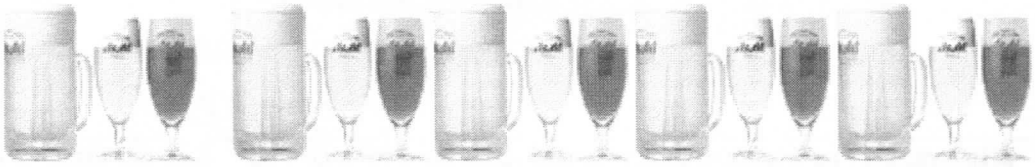
ビアパーティーは7月4日開催

毎年恒例の「納涼ビアパーティー」を７月４日（金）午後６時半から開催します。会場は大阪・梅田のど真ん中。京都や神戸からも便利ですので、ふるってご参加ください。

関西同窓会のホームページ（http://www.kansai-ishidatami.net/）でもご案内しています。

「納涼ビアパーティー」

日時：２００８年７月４日（金）　午後６時３０分～
会場：「ビアダイニング　スーパードライ阪神」
　　大阪市北区梅田１－１３－１３　阪神百貨店Ｂ２
　　電話０６－６３４５－５００６



PLAYBACK～２００７年度総会

まずは総会。金屏風の前でちょっと緊張の会計報告

お待たせしました。乾杯！で懇親会へ突入

間渕豊さん（６回生）の仕切りで恒例の大ジャンケン大会。やっぱり人気はカステラ

校歌斉唱…歌詞を見ながらでないと？？

最後は万歳三唱で締めくくりました

祝

長崎南高で長年、教鞭をとられた廣瀬方人先生が、このたび日韓の平和交流に尽くした人に贈られる「韓日平和功労賞」を受賞されました。廣瀬先生は昭和 37～51 年、同 56～61 年に南高に勤務されています。受賞を記念して、会報に喜びの声を寄せていただきました。

韓日平和功労賞を受賞して

廣瀬　方人

今年の２月１８日、車貞述・韓国被爆者協会元釜山支部長が来崎され、「韓日平和功労賞」を頂きました。周りに美しい螺鈿がはめ込まれた立派な盾です。私には身に過ぎる賞でした。

受賞の理由は２つあります。一つは私が中国ハルビンに日本語教師として赴任した時、それまで受給していた「被爆者健康管理手当」打ち切りに対して長崎地裁に提訴し、最高裁まで６年にわたる裁判を闘ったことによるものです。この間に、卒業生の皆さんには支援のカンパを頂きたいへんお世話になりました。

その裁判が韓日平和功労賞受賞の理由になったわけは、当時、韓国釜山に帰国したため「健康管理手当」を打ち切るのは不当だとして長崎地裁に提訴していた韓国人被爆者・李康寧さんに対して、国の言い分が「日本社会の構成員でないものには『健康管理手当』は支給されない」というものでした。私は中国にいる間も長崎の自宅のための固定資産税や電気、水道、ガスなどの代金を払っていたので、当時韓国人被爆者の支援活動をしていた２回生の平野伸人の勧めで、「日本社会の構成員である私も打ち切られたのはどういうわけだ？」と韓国人被爆者の裁判支援が目的で提訴しました。これによって国の言い分は根本から崩れたわけです。

国が控訴をして、福岡高裁では時効にかかっているという理由で負けたのですが、最高裁で「被爆者には時効はない」という判決が出て最終的に勝利することが出来ました。この一連の裁判で恐らく千人に近い韓国人被爆者が救済されたのではないかと思います。

もうひとつは、昨年４月２９日、韓国釜山を出発してソウルを通り板門店まで「ストーンウォークコリア＝韓国謝罪の旅」を実施したことです。これは重さ１トンの碑石を台車に載せて引っ張るもので、目的は植民地政策の中で苦しんだ韓国の人々に対する謝罪と友好そして平和の旅でした。韓国側からも「よく来てくれた。あなた方の誠実さに感動した」と各地で受け入れてもらうことが出来ました。

この中で一人の牧師さんが「韓国の平和運動はあなたたちから刺激を受けた。ベトナム戦争で韓国の兵隊が延べ３０万人も出兵し、多くのベトナム人に危害を加えた。私たちは「ストーンウォークベトナム」を考えなければならない」と発言しました。私たちのストーンウォークがこのようにして地球上を巡るものになることを願っています。

長崎南高演劇部のOBが開いた受賞祝賀会で。廣瀬先生を囲んで撮影

会員寄稿

ふるさとのなまり懐かし同窓会にて

◇14回生　惣附 育美

前回の総会が初参加の 14 回生の惣附（旧姓相川）です。地元を離れて以来30年、同窓生とも全く音信不通の状態だったのに、なんと今は生駒山をこえて（奈良市に住んでます）幹事会にも嬉々として参加しております。

「なぜ急に？」という疑問には『昨年関東の同窓会では14回生が幹事（卒業後30年の節目で）で、懐かしい名前がならぶメールをみて、ついふらふらと泉ガーデンプレイスの42階に立ち、そのとき声をかけていただいた藤原さんのおかげで11月の関西の同窓会にも顔を出し…』と説明しているのですが、実はほかにも理由があります。

個人的な話題で申し訳ないのですが、我が家では、昨年の春、子供たちが次々に家を離れてついに夫婦２人の生活に突入、俗に言う「空の巣状態」の只中でした。スーパーに行っても、かごの中に入れるのは子供たちの好物ばかり、気づいて戻すとあとには何も残らない（笑）…弁当作りがなくなったのに早起きしてどっさり料理を作ってしまったり…ＴＶを見ながら思わず誰もいない後ろへ話しかけたり…夜にはまだ誰か戻ってくる気がして鍵がかけられなかったり…かつてない虚脱感にじたばたしていました。

実は仕事柄（障害者支援の仕事で、うつなどで休職中の方の復職支援もしてます）この状況がまずいことを自覚はしてました。周りは専門家だらけなので「犬を飼う」「旅行に行く」などのアドバイスをくれるのですが、４年前に長患いの舅を送り、３年前に施設に入っていた伯父を送り、２年前に愛犬まで失ったあとだったので、なかなか気持ちは浮上しません。日頃対象者の方に言っている自分の言葉を思い出し、そのむなしさに呆然としたぐらいです。

同窓会のお誘いが届いたのはそんな時でした。最初さほど気持ちは動かなかったのですが、たびたび誘ってくれる旧友に会ってみたくなりました。すっかり中年になった姿で再会することに気後れしながら覗くと、同期のメンバーの顔はすぐわかり、あっという間に高校生の気分に戻ってました。これは後で感じたことですが、なつかしい笑顔とともに聞いた長崎弁のシャワーが最も効果があったようです。人生で一番元気だった頃のことを体中の細胞が思い出してくれたのかもしれません。

その後クラスや部活（弓道部でした）で一緒だったメンバーの住所を聞き集めて再会したり、メールのやりとりをしたりと、あの無気力な状態が信じられないくらい元気にしていただきました。

関西では同期やこの年代の方はまだ少ないのですが、ちょうど色々変化のある時期なので、きっとこの長崎弁シャワーが必要な方もいらっしゃると思います。ぜひ11月の総会に誘ってみてください。今回きっかけをいただいた関東・関西両同窓会の方々、今まで会を支えてこられた先輩方に本当に感謝しております。ありがとうございました。

＝関東同窓会で撮影。右上が筆者

ふるさと点描

長崎の冬を彩る中国絵巻「ランタンフェスティバル」
（大石会長撮影）

長崎南高校関西同窓会事務局

大阪市中央区北浜２の３の６
北浜山本ビル３階
松本藤一法律事務所内
電話０６－４７０７－８５１８
ﾌｧｸｽ０６－４７０７－００３８
http://www.kansai-ishidatami.net/